

科 目					担当教員(○主担当)				
花き生産流通実習Ⅰ					○今井田一夫・前田宝秀・佐藤智茂☆・水谷喜輝☆ (非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	90	区分	必修	分野	生産
背景と目的	花きの繁殖から栽培、出荷までの実習を行い、鉢物および切り花生産におけるそれぞれの基礎技術の習得を目指す。また、実習で栽培した花き等を直売所で販売し、準備や接客等を行う。								
到達目標	・花きの繁殖方法を理解する。 ・花きの栽培管理を体得する。 ・花きの出荷調製を体得する。 ・チームワークの重要性を理解する。 ・接客ができる。								
評価方法	出席率、取組姿勢、レポート、筆記試験								
教科書	『園芸「コツ」の科学』(講談社)								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	実習は、2つのグループに分け、鉢物および切り花の実習をそれぞれ行う。チームワークが重要である。 直売は毎週火曜日 13:30～15:00 に行い、2～3名の学生が対応する。 実習で扱う植物は以下のとおりである。 鉢物、苗物：ペゴニア、ニチニチソウ、アゲラタム、トレニア、インパチェンス、ジニア、サルビア、ペチュニア、マリーゴールド、センニチコウ、メランポジウム、ダイアンサス、ポットマムなど 切 り 花：バラ、キンギョソウ、マトリカリア、アスター、ガーベラ、トルコギキョウ、ホオズキなど	
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	実習の進め方等について 今井田・前田・佐藤
2	栽培基礎技術の習得および接客①	鉢物：苗物等のは種① 切り花：圃場のマルチング① 今井田・前田・佐藤 直売所での販売
3	栽培基礎技術の習得および接客②	鉢物：鉢物等のさし木① 切り花：定植① 直売所での販売 今井田・前田・佐藤
4	栽培基礎技術の習得および接客③	鉢物：苗物等への施肥① 切り花：フラワーネット設置① 今井田・前田・佐藤 直売所での販売
5	栽培基礎技術の習得および接客④	鉢物：苗物等の仕立て方(ピンチ)① 切り花：芽かき① 今井田・前田・佐藤 直売所での販売
6	栽培基礎技術の習得および接客⑤	鉢物：苗物等の出荷準備① 切り花：葉かき① 直売所での販売 今井田・前田・佐藤
7	栽培基礎技術の習得および接客⑥	鉢物：苗物等の出荷調製① 切り花：収穫および出荷調製① 今井田・前田・佐藤 直売所での販売
8	栽培基礎技術の習得および接客⑦	鉢物：苗物等のは種② 切り花：圃場のマルチング② 今井田・前田・佐藤 直売所での販売
9	栽培基礎技術の習得および接客⑧	鉢物：鉢物等のさし木② 切り花：定植② 直売所での販売 今井田・前田・佐藤
10	生産者指導研修	生産者から学ぶ(ポットマム) 今井田・前田・水谷
11	栽培基礎技術の習得および接客⑨	鉢物：苗物等への施肥② 切り花：フラワーネット設置② 今井田・前田・佐藤 直売所での販売
12	栽培基礎技術の習得および接客⑩	鉢物：苗物等の仕立て方(ピンチ)② 切り花：芽かき② 今井田・前田・佐藤 直売所での販売
13	栽培基礎技術の習得および接客⑪	鉢物：苗物等の出荷準備② 切り花：葉かき② 直売所での販売 今井田・前田・佐藤
14	栽培基礎技術の習得および接客⑫	鉢物：苗物等の出荷調製② 切り花：収穫および出荷調製② 今井田・前田・佐藤 直売所での販売
15	試験	筆記試験 今井田・前田

注意事項	植物の生育状況等により実習内容を変更する場合がある。 温室内は暑いので、常に体調管理に気をつけること。また、熱中症対策(水分補給等)は各自で行うこと。
学生へのメッセージ	鉢物および切り花について、多くの品目を扱うので、それぞれの花きの特徴を覚えましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
園芸装飾実習Ⅰ					○吉田久美子☆・林誠☆・玉田孝一☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必修	分野	装飾
背景と目的	植物は生活空間において身近な存在になっており、まず触れて育てる技術を習得してから装飾をすることにより、より一層植物の特徴を活かしたデザインにつながる。本実習は基本的な植物の育て方と管理方法を学び、多様な植物の装飾方法の基礎技術を習得することを目的とする。								
到達目標	・生活空間での植物の装飾方法および家庭園芸での植物の維持管理方法を習得する。 ・制作した寄せ植えハンギングバスケットなどを長期メンテナンスすることによって、管理方法を習得する。 ・園芸装飾実技試験のデモンストレーションを通し、観葉植物を使用した装飾方法を習得する。 ・春～秋の植物の管理を習得する。								
評価方法	出席率、取組姿勢、提出物、筆記試験								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	2級・3級園芸装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画			
実習・演習の 進め方		花フェスタ記念公園で、園芸装飾の事例調査を行い、寄せ植えやハンギングバスケットなどを制作し学内で 管理及びメンテナンスを行う。 また後期の学内ディスプレイ制作に向けて室内園芸装飾制作の事例を検定試験課題から学ぶ。	
回	項 目	授業内容	
1	園芸装飾の事例	園芸装飾の魅力	吉田・林
2		装飾事例の視察調査(花フェスタ記念公園)	
3	家庭園芸基礎①	植木鉢の種類とその用途	吉田・林
4	寄せ植え基礎①	バルコニープランター・寄せ植え制作	吉田・林
5	家庭園芸基礎②	肥料管理について	吉田・林
6	ハンギングバスケット基礎	ハンギングバスケットの制作と管理	吉田・林
7	室内園芸装飾①	観葉植物を組み合わせた装飾のつくりかた	玉田・林
8	室内園芸装飾②	資材の特徴と扱い方	玉田・林
9	室内園芸装飾③	高低差の収め方	玉田・林
10	室内園芸装飾④	室内作業と管理の注意点	玉田・林
11	家庭園芸基礎③	観葉植物の種類と管理方法	吉田・林
12	苔玉・ハイドロカルチャー	苔玉制作・ハイドロカルチャー制作	吉田・林
13	家庭園芸基礎④	家庭農薬について	吉田・林
14	寄せ植え基礎②	夏のメンテナンス方法	吉田・林
15	まとめ・学科試験	学科試験	吉田・林

注意事項	授業時間外においても制作物の管理及びメンテナンスを行う。 園芸装飾技能検定受験者は、実習棟使用の練習日程を担当教員と調整する。 実習にふさわしい服装でハサミを持参すること。
学生へのメッセージ	生活空間での植物の管理は園芸を学ぶものとして必要です。

科 目					担当教員(○主担当)				
フラワーデザイン実習Ⅰ					○林誠☆・吉田久美子☆・中西裕子☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	必修	分野	装飾
背景と目的	「花と緑のある生活」は人々の心を癒し、現代社会において花き装飾に求められる役割は今後一層大きくなる。フラワーデザインとは植物を素材とする創作活動のすべてを指し、人の手が加わることで、植物の魅力を最大限に引き出しながら用途に合わせた美を表現することである。本科目ではフラワーデザインの基礎技術をアレンジメントや花束を中心に自ら制作することにより身に付ける事を目的とする。								
到達目標	・フラワーアレンジメントの基本技術を身に付ける。 ・花束の基本技術を身に付ける。 ・フラワーデザインについての基本知識を身に付ける。								
評価方法	出席率、取組姿勢、筆記試験、実技試験								
教科書	『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)								
参考書	『NFDウェディングフラワーコーステキスト』(日本フラワーデザイナー協会)								
関連する資格	2級・3級フラワー装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	デモンストレーションを参考に作品を制作する。	
回	項 目	授業内容
1	導入	フラワーデザインの世界と心得、フリーアレンジ 林・吉田
2	アレンジメントの基本①	ラウンド・ホリゾンタル 林・吉田
3	アレンジメントの基本②	トライアングュラー・ファン 林・吉田
4	アレンジメントの基本③	バーティカル、フラワーアレンジの歴史 林・吉田
5	アレンジメントの基本④	面構成と自然度 林・吉田
6	ウェディングブーケの基本	ブライデーラウンドブーケ 林・吉田
7	コサージュ・ブートニアの基本	ワイヤーリングテクニック・ループリボン 吉田・林
8	ブリザーブドフラワーの基本	ブリザーブドフラワーの特徴・ローズメリア 中西・林
9	ドライフラワーの基本	ドライフラワーの特徴・壁掛け 中西・林
10	押し花の基本	押し花の特徴・額縁 中西・林
11	花束の基本①	水あげ方法・スパイラルテクニック(一方見と四方見) 吉田・林
12	花束の基本②	ラッピング方法・パラレルテクニック 林・吉田
13	生花店見学と花材選び(学外)	テーマに沿った花束・アレンジメント制作(神戸町:フラワーみずり) 林・吉田
14		
15	試験	筆記と実技(コサージュ制作) 林・吉田

注意事項	実習にふさわしい服装で受講すること。
学生へのメッセージ	フラワーデザインの基礎技術や知識を学び、植物の魅力を最大限に引き出し、より美しく表現できるようにしましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
3級フラワー装飾検定対策実習					○林誠☆・安保有美☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	選択	分野	装飾
背景と目的	3級フラワー装飾技能士という資格は、花の装飾に関わる仕事において、最低限の(初級の)技術を有していることを証明する国家資格です。実技試験対策の実習や学科試験対策の講習を重ねて、3級フラワー装飾技能士の取得、もしくは、同レベルの技術と知識の習得を目的とする。								
到達目標	・3級フラワー技能検定の合格水準の技術力を身に付ける。 ・実技試験内容を繰り返し制作練習することで基礎的な技術を身に付ける。 ・学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を身に付ける。								
評価方法	出席率、取組姿勢、実技試験、筆記試験								
教科書	—								
参考書	「フラワー装飾技能検定試験・実例とポイント」(講談社エディトリアル)								
関連する資格	3級フラワー装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	3課題を、花材の入荷と各自の習得スピードに合わせて、指導を行う。	
回	項 目	授業内容
1	検定試験の概要	検定試験の概要説明とデモンストレーション 安保 林
2	花束課題①	花束の基本 安保 林
3	花束課題②	花束の基本徹底 安保 林
4	花束課題③	効率的な花束の制作 安保 林
5	アレンジメント課題①	アレンジメントの基本 安保 林
6	アレンジメント課題②	アレンジメントの基本徹底 安保 林
7	アレンジメント課題③	効率的なアレンジメントの制作 安保 林
8	ブートニア課題①	ブートニアの基本 安保 林
9	ブートニア課題②	ブートニアの基本徹底 安保 林
10	ブートニア課題③	効率的なブートニアの制作 安保 林
11	3課題①	時間配分を考慮した通し練習① 安保 林
12	3課題②	時間配分を考慮した通し練習② 安保 林
13	3課題③	時間配分を考慮した通し練習③ 安保 林
14	3課題④	実技課題最終確認 安保 林
15	学科試験対策	過去問題・模擬問題 林

注意事項	担当教員と事前に相談の上、「相互科目履修申請書」を提出し、許可を受けた2年生も履修することができる。 時間外の練習も必要な場合もあるため、授業外も練習する意欲や花材費などのことも良く考えて履修すること。
学生へのメッセージ	合格目指して頑張りましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
花修景実習Ⅰ					○相田明・新井俊宏☆・天野麻里絵☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必修	分野	造園
背景と目的	花を使った修景(景色を整えること)は、人々の目を引くことから、個人の庭園から都市公園、商業施設までさまざまな場面で活用されている。1年前期・後期、2年前期の1年半にわたり継続する「花と緑の学校」の基礎を学ぶ花修景実習は、学内で栽培した1年草の鉢苗を中心に学内(本館と研修教育棟)の植栽地に夏花壇をつくることにより、その植栽計画・管理の習得を目的とする。								
到達目標	・1年草の鉢苗について生育を知る。 ・土壌改良、施肥について理解する。 ・植栽計画、植栽地の管理ができる。								
評価方法	出席率、取組姿勢、提出物								
教科書	『小さくても素敵な花壇づくり』(講談社)								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画			
実習・演習の 進め方		主に学内で生産した花苗を使い実習を行う。 学外の視察調査を予定している。	
回	項 目	授業内容	
1	夏花壇の土壌改良①	冬花壇の撤去と土づくり	相田・新井
2			
3	花壇の植物とその植栽法	花壇で使用する植物とその管理方法	相田・天野
4	花壇のデザイン	花壇のデザインの手法	相田・天野
5	夏花壇の植栽	1年草の植栽	相田・天野
6			
7	夏花壇の管理①	6月の植栽管理	相田・天野
8			
9	夏花壇の管理②	7月の植栽管理	相田・天野
10			
11	夏花壇の管理③	9月植栽管理	相田・新井
12			
13	視察調査	花を使った修景空間の視察調査(豊田ガーデン)	相田
14			
15	夏花壇のまとめ	まとめと花修景実習Ⅱに向けての説明	相田・新井

注意事項	実習ではハサミ、手袋、帽子、作業しやすい服装が必要。
学生へのメッセージ	公園の現場では花苗植栽や花がら摘みはボランティアが行うことも多く、我々の仕事は花苗の購入手配や土壌改良、除草といった裏方の地味な仕事となります。しかし、このような仕事があるからこそ、花が美しく保たれることにつながります。花を使った空間づくりができるようになりますように。

科 目					担当教員(○主担当)				
造園施工管理実習Ⅰ					○新井俊宏☆・相田明・佐竹康太郎☆(非常勤講師)・ 藤吉栄一☆(非常勤講師)・上田善弘(客員教授)				
授業 形態	実習	開講 時期	1年 前期	時間数	60	区分	必修	分野	造園
背景 と 目的	施工実習では、自然材料や加工材料を用いた造園施設の制作、管理実習では学内庭園や植物について時期や生育特性に合わせた管理方法などを学ぶとともに、造園的視点・視野をもった観察力の強化を図る。 これにより、潤いとやすらぎのある造園空間を創造するための基礎的な知識、技術、センスの習得を目指す。								
到達 目標	・造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。 ・造園施設(竹垣、敷石、レンガ舗装、ロックガーデンなど)の施工方法を習得する。 ・造園空間の特性を理解する。								
評価方法	出席率、取組姿勢、実技試験、提出物								
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)								
参考書	—								
関連する資格	2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の 進め方	学内の庭園や植栽地をフィールドとして、造園施工作業及び造園管理作業の実習を行う。 また、学外での造園空間調査の実習も行う。	
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	学内の造園的空間と道具の取り扱い 新井・相田
2	造園管理①	屋外造園空間・屋上庭園・園芸療法ガーデン等の管理 新井・相田
3	造園管理②	芝生の管理 新井・相田
4	造園管理③	常緑樹の春の管理(クロマツのミドリ摘み) 佐竹・新井
5	造園空間視察	学外造園空間(棚田の景観、商業施設)の視察及び調査 相田
6	造園管理④	春の花木剪定、灌木の刈り込み 新井・相田
7	造園管理⑤	屋外造園空間・屋上庭園・園芸療法ガーデン等の管理 新井・相田
8	造園施工①	四つ目垣の制作 藤吉・新井
9	造園施工②	基本的な縁石、敷石の据付け 藤吉・相田
10	造園施工③	レンガ舗装パターンのデザイン・敷設 新井・相田
11	造園管理⑥	初夏の花木剪定、灌木の刈り込み 新井・相田
12	造園管理⑦	常緑樹の剪定 佐竹・新井
13	造園管理⑧	バラの特性と夏剪定(花フェスタ記念公園) 上田・新井
14	造園管理⑨	屋外造園空間・屋上庭園・園芸療法ガーデン等の管理 新井・相田
15	造園施工④	ロックガーデンの石組み・植栽 新井・相田

注意事項	実習時は作業着、グローブ、保護帽などを着用すること。 天候などの理由により実習内容を変更する場合がある。 夏期の高温時の作業では、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をすること。 体調管理を十分にすること。
学生への メッセージ	造園の基本的な知識や技術、センスをこの授業でしっかり身につけてください。

科 目					担当教員(○主担当)				
3級造園技能検定対策実習					○新井俊宏☆・相田明・藤吉栄一☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択	分野	造園
背景と目的	造園技能士資格検定は造園に関するさまざまな知識と技能の検定を行い、その合格者だけに与えられる国家資格である。造園技能士は、一般のご家庭の庭づくりや維持管理ばかりでなく、大規模な公共工事では現場に参加することが義務づけられるなど、社会的な必要性は益々高まっている。 この授業では3級造園技能検定試験に合格するための知識、技術を習得することを目標とする。								
到達目標	・学科試験の合格水準に達する知識を習得する。 ・実技試験の課題制作が、規定時間内に規定の寸法どおりに完成することができる。 ・実技試験の要素試験に出題される樹木を判別することができる。								
評価方法	出席率、取組姿勢、実技試験								
教科書	『3級造園技能検定受検の手引き(学科・実技編)』(日本造園組合連合会)								
参考書	『3級造園技能検定 DVD』(日本造園組合連合会)								
関連する資格	3級造園技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	6月～8月に検定試験日程に合わせて集中開講する(一部夏季休業中に実施)。 学科試験対策は、受験の手引きに掲載されている過去問題を解きながら解説を行う。 実技試験の課題制作対策は、練習場において、繰り返し課題を制作して練習する。 実技試験の要素試験対策は、学内の樹木枝を標本木として枝、葉、芽などの特徴を覚える。	
回	項 目	授業内容
1	学科・実技試験概要	学科・実技試験対策の講義 新井・相田
2	実技試験対策①	実技試験課題の練習① 藤吉・相田
3		
4	実技試験対策②	実技試験課題の練習② 藤吉・相田
5		
6	実技試験対策③	要素試験対策 新井
7	学科試験対策	過去問題による学科試験の出題傾向 相田
8	実技試験対策④	実技試験課題の練習③ 藤吉・相田
9		
10	実技試験対策⑤	実技試験課題の練習④ 藤吉・相田
11		
12	実技試験対策⑥	実技試験課題の練習⑤ 藤吉・相田
13		
14	実技試験対策⑦	実技試験課題の練習⑥ 藤吉・相田
15		

注意事項	担当教員と事前に相談の上、「相互科目履修申請書」を提出し、許可を受けた2年生も履修することができる。 天候などの理由により実習日程を変更する場合がある。 夏期高温時の作業となるため、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をするなど、体調管理を十分にすること。
学生へのメッセージ	国家試験をととして造園の奥深さや面白さを体験してください。

科 目					担当教員(○主担当)				
植物管理基礎実習Ⅰ					○前田宝秀・今井田一夫・吉田久美子☆・林誠☆・相田明・新井俊宏☆・井上守☆・佐藤智茂☆				
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	必修	分野	共通
背景と目的	生産・装飾・造園緑化の各分野において、四季を通じて植物を管理するための知識および技術は必ず習得すべきものである。 本実習では、春～夏季における生産温室・学内花壇・庭園その他各種花飾り等の日常管理を行うことで、園芸植物管理に不可欠な基礎的技術と知識を習得する。								
到達目標	・春夏季における植物の種類による管理方法の違いを理解する。 ・春夏季における灌水技術を習得する。 ・春夏季における温室の管理技術を習得する。								
評価方法	出席率、取組姿勢、週間レポート								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	原則1週間(水曜日～翌週火曜日)を単位として管理業務を行う。学生の班編制を行い、年間計画を作成して実習を行う。学生の班編制は、季節の作業内容や管理するエリア等を考慮して人数を決める。1年生1名に対して2年生1名が原則として組み、当番教員が植物管理について指導を行う。	
回	項 目	授業内容
1	植物の種類と管理	植物の種類に応じた管理方法を習得する。 週担当教員
2		
3	土壌と灌水①	土壌の性質と水管理について学ぶ。 週担当教員
4		
5	土壌と灌水②	自動灌水と手灌水による管理技術を習得する 週担当教員
6		
7	植物の生長・開花①	環境(温度・光・水・風)の変化による植物の生長の違いを学ぶ。 週担当教員
8		
9	植物の生長・開花②	植物の特性に応じた環境調節(遮光、保温、暖房等)技術を習得する。 週担当教員
10		
11	植物の総合管理	花殻摘み・除草などの植物維持管理技術を習得する。 週担当教員
12		
13	病害虫・品質	病害虫の種類と生態について学ぶ。 週担当教員
14		
15	レポート作成	学習進捗のチェックを行う。 週担当教員

注意事項	年間計画に基づき、おおむね1週間の当番を複数回行う。 実習時間は原則として、朝8時から8時45分、夕方4時35分から5時5分までとする。 祝日および長期休暇期間中も行う。
学生へのメッセージ	まずは植物を「枯らさない」ことに始まり、「美しい状態で維持管理する」技術の習得を目指します。 灌水の技術だけでも3年かかってやっと習得できるという意味で、「水やり三年」という言葉があります。植物の日常的な管理は日々の経験の積み重ねが大切ですので、コツコツと頑張りましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
園芸流通概論					○井上守☆				
授業形態	講義	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必修	分野	共通
背景と目的	日本の花き生産は1990年をピークに減少の一途をたどっている。花き流通の現場では生産の減少に伴い厳しい経営環境が続き、生き残りを賭けて大胆な変革や抜本的な構造改革を余儀なくされている。この講義では未来に向けて変化する花き流通の現場を、最新の情報と現物を見ることでより印象強く焼きつけ、今後の花き流通の方向性を正しく理解する事を目的とする。								
到達目標	・国内外の花きの生産状況を理解する。 ・卸売市場や農協の中間業者の役割と機能を理解する。 ・ガーデンセンター、HC、小売店等の販売状況を理解する。 ・花き流通に関する最新の関連法令(植物検疫、種苗法)を理解する。 ・花きの物流に関する最新事情(技術、特許)を理解する。								
評価方法	出席率、受講態度、筆記試験								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方 井上
2	国内の花き生産	国内の切花、鉢物、樹木の生産状況 井上
3	海外の花き生産と植物検疫	海外の花き生産と日本に輸出される花きの状況と植物検疫の現状 井上
4	卸売市場や農協の機能と役割	中間業者として卸売市場や農協の歴史と果たしてきた役割とその未来 井上
5	消費者への直販の現状と未来	生産者が直接消費者に販売する流通ルートを学習する。直売所、ネット販売、テレビ通販の状況を紹介 井上
6	学外視察 愛知豊明花き地方卸売市場	・日本最大の鉢物市場にて、様々な鉢物を調査。 ・切花流通の現状視察 ・物流施設の見学 ・商品の品質管理の現状の視察 ・鮮度管理実験室の視察
7		
8		
9	学外視察 岐阜花き流通センター見本市	岐阜県内の主要鉢物生産者が出展する見本市を視察。 ・工夫された各ブースのディスプレイやデザインを見る ・生産者との交流
10		
11	花の小売店と花を扱う業者	花の小売店(生花店、園芸店)の状況と花を扱う業者(葬儀、ブライダル、ディスプレイ)の紹介 井上
12	植物の表記とその呼称	正式な植物名(学名、種小名、品種名)の表記と一般に使用される植物の呼称についての整理 井上
13	壁面緑化ビジネス	壁面緑化ビジネスの最新情報 井上
14	試験	井上
15	花きの物流資材とその技術革新と特許	様々な切花バケット輸送、鉢物トレーを紹介し、その特許について解説 井上

注意事項	—
学生へのメッセージ	『百聞は一見にしかず』といいますが、私は『百見は一験(体験してみる)、一触(さわってみる)にしかず』と思っています。最新の流通現場を体験して触れてみましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
花き生産流通実習Ⅱ					○今井田一夫・前田宝秀・佐藤智茂☆・水谷喜輝☆ (非常勤講師)・吉田久美子☆・林誠☆				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	60	区分	必修	分野	生産
背景と目的	岐阜県の農産物が一同に介してPRする「岐阜県農業フェスティバル」(毎年10月末開催)で販売する花きの栽培管理や出荷調整を行い、販売にともなうポップ等を製作し、会場(岐阜県庁周辺)で販売を行う。また、前期に習得した基礎技術を現場で実践し、春に出荷する花きの栽培管理や出荷調整を行う。花き生産流通実習Ⅰと同様に直売所での実習も行う。								
到達目標	・イベントで販売するためのプロセスを体得する。 ・花きの栽培管理を体得する。 ・チームワークの重要性を理解する。 ・花きの繁殖方法を理解する。 ・花きの出荷調整を体得する。 ・接客ができる。								
評価方法	出席率、取組姿勢、レポート、筆記試験								
教科書	『園芸「コソ」の科学』(講談社)								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画			
実習・演習の進め方	実習は前期同様2つのグループに分け、鉢物および切り花の実習をそれぞれ行う。チームワークが重要である。直売も、前期同様2～3名の学生が対応する。 実習で扱う植物は以下のとおりである。 鉢物、苗物:ポットマム、パンジー、ビオラ、ハボタン、ガーデンシクラメン、シクラメン、クリサンセマム、アリッサム、ロベリア、シネリリア、バーベナ、デージー、ストックなど 切 花:バラ、ガーベラ、ヒマワリ、キンギョソウ、キク、ストック、モルセラ、ハボタンなど		
回	項 目	授業内容	
1	農業フェスティバルに向けての栽培管理および接客	農業フェスティバルで販売する花きの栽培管理 直売所での販売	今井田・前田・佐藤
2	農業フェスティバルに向けての出荷調整および接客	農業フェスティバルで販売する花きの出荷調整 直売所での販売	今井田・前田・佐藤
3	農業フェスティバルで販売方法および接客	農業フェスティバルで販売するための接客、ポップ製作、商品陳列方法。直売所での販売	今井田・前田・吉田・林・佐藤
4	農業フェスティバルでの販売①	岐阜県庁周辺での販売実習①	今井田・前田・吉田・林
5	農業フェスティバルでの販売②	岐阜県庁周辺での販売実習②	今井田・前田・吉田・林
6	生産者指導研修	生産者から学ぶ(ポットマム)	今井田・前田・水谷
7	栽培基礎技術の実践および接客①	習得した基礎技術を現場で実践する①。直売所での販売	今井田・前田・佐藤
8	栽培基礎技術の実践および接客②	習得した基礎技術を現場で実践する②。直売所での販売	今井田・前田・佐藤
9	栽培基礎技術の実践および接客③	習得した基礎技術を現場で実践する③。直売所での販売	今井田・前田・佐藤
10	栽培基礎技術の実践および接客④	習得した基礎技術を現場で実践する④。直売所での販売	今井田・前田・佐藤
11	栽培基礎技術の実践および接客⑤	習得した基礎技術を現場で実践する⑤。直売所での販売	今井田・前田・佐藤
12	栽培基礎技術の実践および接客⑥	習得した基礎技術を現場で実践する⑥。直売所での販売	今井田・前田・佐藤
13	栽培基礎技術の実践および接客⑦	習得した基礎技術を現場で実践する⑦。直売所での販売	今井田・前田・佐藤
14	栽培基礎技術の実践および接客⑧	習得した基礎技術を現場で実践する⑧。直売所での販売	今井田・前田・佐藤
15	試験	筆記試験およびレポート提出	今井田・前田

注意事項	体調管理に気をつけること。また、熱中症対策(水分補給等)および防寒対策は各自で行うこと。
学生へのメッセージ	農業フェスティバルでの販売、がんばりましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
園芸装飾実習Ⅱ					○吉田久美子☆・林誠☆				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	装飾
背景と目的	公共施設において植物は、人々に快適な空間をつくり、美しい街づくりには欠かせない存在となっている。本科目では学外事例を視察し、学内にテーマに合った空間園芸装飾をグループでコミュニケーションを取りながらデザイン～資材調達～施工～管理～撤去の一連の作業を行い実践的な技術を身に付ける。								
到達目標	・秋～春の植物の管理方法を習得する。 ・バルコニープランター・ハンギングバスケットの開花調整・メンテナンス方法を習得する。 ・室内園芸装飾作品における基本的テクニックの習得をする。 ・デザイン・施工・植物管理・撤去を、グループで行う事でコミュニケーション力と協調性を身に付ける。								
評価方法	出席率、取組姿勢、提出物、制作作品								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	2級・3級園芸装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	学外調査にて園芸装飾事例の計画方法や手法の調査を行い、グループに分かれ学内に約3週間装飾し、管理を行う。 学内に装飾するプランターやハンギングバスケットの植物の組合せや管理を各々のデザイン・管理方法で行う。	
回	項 目	授業内容
1	装飾事例調査(学外)	装飾事例の視察調査(安城産業文化公園デンパーク) 吉田・林
2		
3		
4		
5	家庭園芸基礎	球根の種類と分類と植栽方法 吉田・林
6	寄せ植え応用	バルコニープランターとハンギングバスケットの制作と管理方法 吉田・林
7	室内園芸装飾①	室内園芸装飾における植物の管理方法 吉田・林
8	室内園芸装飾②	室内園芸装飾の計画 吉田・林
9	室内園芸装飾③	室内園芸装飾の準備 吉田・林
10		
11	室内園芸装飾④	室内園芸装飾の制作 吉田・林
12		
13		
14		
15	室内園芸装飾⑤	室内園芸装飾のメンテナンス 吉田・林

注意事項	授業時間外においても制作物の管理及びメンテナンスを実施する。 実習にふさわしい服装でハサミを持参すること。
学生へのメッセージ	園芸装飾実習Ⅰを基本に本実習では実践的なテクニックを身に付けましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
フラワーデザイン実習Ⅱ					○林誠☆・吉田久美子☆・中西裕子☆(非常勤講師)・國井理佐☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	60	区分	選択	分野	装飾
背景と目的	フローリストの仕事の中で、季節や行事、イベントに関連する仕事の割合は年々増加している。本実習では、様々な季節や行事、イベントに特化した作品(商品)づくりに取り組むことにより、フローリストとして、クライアントの要望に答えられる知識や技術の引き出しを増やす事を目的とします。								
到達目標	・季節の商品が制作できる。 ・花に関わる季節行事を知る。 ・自ら花材を選びイメージを形にできる。								
評価方法	出席率、取組姿勢、筆記試験、実技試験								
教科書	『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)								
参考書	『NFDウエディングフラワーコーステキスト』(日本フラワーデザイナー協会)								
関連する資格	2級・3級フラワー装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	デモンストレーションを参考に作品を制作する。 デザイン・コンセプトを考え作品を制作する。	
回	項 目	授業内容
1	ウェディング装花①	ヘアーオーナメント 國井・林
2	季節の商品・ハロウィン	グルーピングテクニック・ハロウィンアレンジメント 林・吉田
3	鉢のラッピングと寄せ鉢	ポット鉢の組み合わせ・ラッピング 吉田・林
4	プリザーブドフラワーとドライフラワーの応用	パウダーフォーム・ハーバリウム 中西・林
5	ウェディング装花②	ブライデーキャスケードブーケ 林・吉田
6	アレンジメントの応用①	クレセント・ホガース 林・吉田
7	季節の商品・クリスマス①	テーブルコーディネート・クリスマスのアレンジメント 中西・林
8	季節の商品・クリスマス②	花に関わる季節行事・スワッグ 吉田・林
9	季節の商品・クリスマス③	クリスマスリース 林・吉田
10	季節の商品・正月	しめ縄・正月のアレンジメント(グロースオブハビット) 吉田・林
11	花束の応用	スパイラルテクニック(一方見・四方見) 林・吉田
12	アレンジメントの応用②	異なる素材の組み合わせ・BOXアレンジメント 林・吉田
13	ウェディング装花③	クレセントブーケ 國井・林
14	プリザーブドコサージュ	卒業式に向けたプリザーブドコサージュ制作 林・吉田
15	試験	花束・アレンジメント制作(テーマに基づき各自花材調達) 林・吉田

注意事項	実習にふさわしい服装で受講すること。 花き装飾コース専攻生には強く推奨する。
学生へのメッセージ	フラワーデザインのテクニックや知識をより多く習得し作品の幅を広げましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
花修景実習Ⅱ					○相田明・新井俊宏☆・上野恵☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必修	分野	造園
背景と目的	花修景実習Ⅰに続き、本館と研修教育棟に加え、学内のボーダーガーデン、学外の花フェスタ記念公園を実習地とするこの実習は、1・2年草や球根、宿根草の植栽計画・管理の習得を目的とする。								
到達目標	・1・2年草や球根、宿根草の生育を知る。 ・都市公園における花修景について理解する。 ・ボーダーガーデンにおける宿根草の株分け、掘り上げができる。 ・2年草や球根、宿根草を使った植栽計画を立てることができる。								
評価方法	課題、出席率、取組姿勢								
教科書	『小さくても素敵な花壇づくり』(講談社)								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	学内の実習では講義や実習内容の説明をした後(1時間程度)、実習を行う。花フェスタ記念公園の実習ではバスを利用し移動する。	
回	項 目	授業内容
1	冬花壇の土壌改良	夏花壇の撤去と土づくり 相田・新井
2		
3	冬花壇の植栽①	1年草などの植栽(花フェスタ)① 相田・上野
4		
5	冬花壇の植栽②	1年草などの植栽 相田・新井
6		
7	冬花壇の植栽③	1年草などの植栽(花フェスタ)② 相田・上野
8		
9	冬花壇の管理①	植栽管理(花フェスタ) 相田・上野
10		
11	冬花壇の管理②	植栽管理 相田・新井
12		
13	ボーダーガーデンの管理①	宿根草などの管理、株分け・鉢上げ① 相田
14		
15	ボーダーガーデンの管理②	宿根草などの管理、株分け・鉢上げ② 相田

注意事項	実習ではハサミ、手袋、帽子、作業しやすい服装が必要。
学生へのメッセージ	学内の植栽と違い、花フェスタ記念公園の植栽は来園者に見ていただく喜びがあると思います。

科 目					担当教員(○主担当)				
造園施工・管理実習Ⅱ					○新井俊宏☆・相田明・佐竹康太郎☆(非常勤講師)・ 藤吉栄一☆(非常勤講師)・上田善弘(客員教授)・ 田畑勝洋☆(非常勤講師)・浅野洋一☆(非常勤講師)				
授業 形態	実習	開講 時期	1年 後期	時間数	60	区分	選択	分野	造園
背景 と 目的	『造園施工・管理実習Ⅰ』に引き続き、潤いとやすらぎのある造園空間を創造するための基礎的な知識、技術、センスの習得を目指す。 施工実習および管理実習ともに『造園施工・管理実習Ⅰ』同様、自然材料や加工材料を用いた造園施設の制作、学内庭園や植物について時期や生育特性に合わせた管理方法、樹木病害虫の防除方法などについて学ぶ。								
到達 目標	・造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。 ・造園施設(景石、延べ段など)の施工方法を習得する。 ・造園空間の様式や構成を理解する。								
評価方法	出席率、取組姿勢、実技試験、提出物								
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)								
参考書	—								
関連する資格	2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画			
実習・演習の 進め方		学内の庭園や植栽地をフィールドとして、造園施工作業及び造園管理作業の実習を行う。 また、学外での造園空間調査も行う。	
回	項 目	授業内容	
1	造園管理①	芝生の刈り込み・サッチ取り・目土・ウインターオーバーシーディング	新井・相田
2	造園管理②	マツ類の病害虫観察・防除法	田畑・新井
3	造園管理③	屋外造園空間・屋上庭園・園芸療法ガーデン等の管理	新井・相田
4	造園管理④	小庭園の管理(花フェスタ記念公園)	新井・相田
5	造園管理⑤	常緑樹の剪定	佐竹・新井
6	造園管理⑥	落葉樹の剪定	新井・相田
7	造園空間視察	露地空間の構成と様式 (有楽苑:犬山市)	新井
8	造園管理⑦	常緑針葉樹の秋の管理(マツのもみあげ)	佐竹・新井
9	造園管理⑧	常緑樹針葉樹の秋の管理(マツのもみあげ)	新井・相田
10	造園施工視察	樹木の移植(低木)、植栽基盤の土壌改良	新井・相田
11	造園管理⑨	バラの冬季剪定(学内)	上田・新井
12	造園施工①	樹木の移植(高木)、植栽基盤の土壌改良、支柱	新井・相田
13	造園管理⑩	ツルバラの特性と冬季剪定・誘引	浅野・新井
14	造園施工②	チェーンブロックによる景石の据え付け	藤吉・新井
15	造園施工③	延べ段の様式と施工	藤吉・新井

注意事項	実習時は作業着、グローブ、保護帽などを着用すること 天候などの理由により実習内容を変更する場合がある。 体調管理を十分にすること。
学生への メッセージ	造園の基本的な知識や技術、センスをこの授業でしっかり身につけてください。

科 目					担当教員(○主担当)				
CAD製図実習					○相田明・堀部裕美子☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園
背景と目的	文章を手書きではなくパソコンを用いて書くように、造園の設計図もパソコンを利用する時代となっている。設計図を描くソフトウェアである CAD による作図の基礎を学び、今後の造園設計に役立てることを目的とする。								
到達目標	・CAD の基本作図ができる。 ・CAD による基本的な2D作図ができる。 ・CAD による基本的な3D作図ができる。								
評価方法	出席率、取組姿勢、提出物								
教科書	『CAD リテラシー演習』、『はじめてのVectorworks』、『Vectorworks3D のスタート』(A&A)								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	岐阜県農業大学校の情報処理室で実施する。	
回	項 目	授業内容
1	CADとは	手書きによる製図とCAD・エクステリア用 CAD 相田
2	VectorWorksの基礎①	起動から新規作成・保存 相田
3	VectorWorksの基礎②	レイヤとクラス 相田
4	作図の基本①	トレーニング 直線・ダブルライン、四角形・斜め四角の描画 相田
5	作図の基本②	トレーニング 多角形、正四角形、曲線・フリーハンド図形の描画 相田
6	2D図形の編集①	多角形の編集・消しゴムツール、フィレット・面取り・オフセット 相田
7	2D図形の編集②	回転ツール・ミラー反転ツール・パス複製ツール 相田
8	平面図の実践トレーニング①	図面の制作(3級造園技能士施工図)① 相田
9	平面図の実践トレーニング②	図面の制作(3級造園技能士施工図)② 相田
10	平面図の実践トレーニング③	図面の制作(2級造園技能士施工図)① 相田
11	平面図の実践トレーニング④	図面の制作(2級造園技能士施工図)② 相田
12	3D図形の編集①	柱状体・錘状体を使って描画 相田・堀部
13	3D図形の編集②	多段柱状体を使って描画 相田・堀部
14	3D図形の編集③	3D図面の制作① 相田・堀部
15	3D図形の編集④	3D図面の制作② 相田・堀部

注意事項	「測量・製図実習」の履修者、もしくは製図の基礎を理解している学生を対象とする。
学生へのメッセージ	CAD のソフトウェアは操作が複雑で難しいと感じるかもしれません。しかし、一度覚えると卒業制作などの図面を修正するとき便利なが実感できると思います。

科 目					担当教員(○主担当)				
キャリアデザイン I					○佐藤智茂☆・伊藤享子☆(非常勤講師)・竹下大学☆(非常勤講師)・高木幹夫☆(非常勤講師)・高木雄基☆(非常勤講師)・安保有美☆(非常勤講師)				
授業形態	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必修	分野	共通
背景と目的	近年、新卒者の3年内離職率(厚生労働省調べ。短大等卒)は40%を超えており、安定した雇用環境下において長期視点に立ったキャリア形成を実践し辛いのではないか、という課題があると考えられる。 卒業後、就業時のミスマッチを防ぐため、学生一人ひとりが自分の勤労観や職業観を育て、就職活動や学業へ積極的に取り組めるようになることを目的とする。								
到達目標	・いろいろな勤労観・職業観に触れることを通じて、自らのそれを育む。 ・『社会人キャリア力育成アセスメント』の受験により、自分の『社会人基礎力』を知り、その向上や改善を図る。 ・就職活動の準備(プレエントリー期)に円滑に取り組むことができる。								
評価方法	提出物、受講態度、出席率								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
回	項 目	授業内容
1	検定受験	『社会人キャリア力育成アセスメント』受験 佐藤
2	ガイダンス	授業の趣旨および内容の概説、『1週間の活動履歴ポートフォリオ』作成に関して 等 佐藤
3	社会人マナー・礼節講座	『職場体験実習 I (インターンシップ)』のための、責任ある職場の一員(社会人)として求められる言葉づかいやマナーを学ぶ 伊藤・佐藤
4		
5	働くことへの、或る視点①	企業(組織)で働くということ(ビデオ視聴) 佐藤
6	働くことへの、或る視点②	個人のキャリア形成についての考察(ビデオ視聴) 佐藤
7	働く、ということ①	基本的なマーケティングの考え方(顧客の捉え方) 佐藤
8	働く、ということ②	基本的なマーケティングの考え方(マーケティングミックス) 佐藤
9	職業園芸人になる①	ロールプレイや体験学習を通し、自分の強みや弱みを自覚しチームワークをの大切さを学ぶ 竹下・佐藤
10		
11	職業園芸人になる②	ケーススタディ(『げんきの郷』のマーケティング事例)、官能評価体験(野菜や果物) 高木(幹)・佐藤
12	職業園芸人になる③	アカデミー卒業後の私のキャリア① 安保・佐藤
13	職業園芸人になる④	アカデミー卒業後の私のキャリア② 高木(雄)・佐藤
14	就職活動に関して①	就職活動(スケジュール等全般的な流れ)に関する情報提供① 佐藤
15	就職活動に関して②	就職活動(企業説明会、ES、履歴書等エントリー活動)に関する情報提供②(ビデオ視聴) 佐藤

注意事項	『1週間の活動履歴ポートフォリオ』は在学期間を通して継続作成、提出する。 非常勤講師の講義は講師都合等による開講日、順序の変更の可能性がある。
学生へのメッセージ	多くの人は“働く”ことに自らの時間資源の多くを投入し、その報酬として経済的自立と自己の尊厳を獲得・確立していくと考えられます。人生という長い旅路の中で大切な位置を占めるであろう“働く”ことに関して、自分なりの「思考の軸」を持てるよう一緒に考えていきましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
植物管理基礎実習Ⅱ					○前田宝秀・今井田一夫・吉田久美子☆・林誠☆相田明・新井俊宏☆・井上守☆・佐藤智茂☆				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必修	分野	共通
背景と目的	生産・装飾・造園の各分野において、四季を通じて植物を管理するための知識および技術は必ず習得すべきものである。 本実習では、秋～冬季における生産温室・学内花壇・庭園その他各種花飾り等の日常管理を行うことで、園芸植物管理に不可欠な基礎的技術と知識を習得する。								
到達目標	・秋冬季における植物の種類による管理方法の違いを理解する。 ・秋冬季における灌水技術を習得する。 ・秋冬季における温室の管理技術を習得する。								
評価方法	出席率、取組姿勢、週間レポート								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	原則1週間(水曜日～翌週火曜日)を単位として管理業務を行う。学生の班編制を行い、年間計画を作成して実習を行う。班編制は、季節の作業内容や管理するエリア等を考慮して人数を決める。 当番教員が植物管理について指導を行う。	
回	項 目	授業内容
1	植物の種類と管理	植物の種類に応じた管理方法を習得する。 週担当教員
2		
3	土壌と灌水①	土壌の性質と水管理について学ぶ。 週担当教員
4		
5	土壌と灌水②	自動灌水と手灌水による管理技術を習得する 週担当教員
6		
7	植物の生長・開花①	環境(温度・光・水・風)の変化による植物の生長の違いを学ぶ。 週担当教員
8		
9	植物の生長・開花②	植物の特性に応じた環境調節(遮光、保温、暖房等)技術を習得する。 週担当教員
10		
11	植物の総合管理	花殻摘み・除草などの植物維持管理技術を習得する。 週担当教員
12		
13	病害虫・品質	病害虫の種類と生態について学ぶ。 週担当教員
14		
15	レポート作成	学習進捗のチェックを行う。 週担当教員

注意事項	年間計画に基づき、おおむね1週間の当番を複数回行う。 実習時間は原則として、朝8時から8時45分、夕方4時35分から5時5分までとする。 祝日および長期休暇期間中も行う。
学生へのメッセージ	まずは植物を「枯らさない」ことに始まり、「美しい状態で維持管理する」技術の習得を目指します。 灌水の技術だけでも3年かかってやっと習得できるという意味で、「水やり三年」という言葉があります。植物の日常的な管理は日々の経験の積み重ねが大切ですので、コツコツと頑張りましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
職場体験実習Ⅰ					○各コース担当教員・佐藤智茂☆				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	120	区分	必修	分野	共通
背景と目的	近年、新卒者の3年内離職率(厚生労働省調べ。短大等卒)は40%を超えており、就業後のミスマッチによる労使双方の不利益が発生していると考えられる。この科目では、「就職や勤労に対する意識」を高め、社会人として「自分に足りないもの」を自覚することを通じて、今後の学習意欲の向上を、また「実際に仕事に臨むための姿勢や態度」を体感し、今後の進路・職業選択に役立てることを目的とする。								
到達目標	・受入先企業等の業種の全般的な仕事内容に関して、体験に基づいた知見を得る。								
評価方法	受入先企業等評価、日報、報告会内容及び態度								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	担当教員との十分な事前打ち合わせ 受入先企業等の従業員の指導下で『10日以上』の業務従事 報告会発表へ向けての振り返りと資料作り 報告会で発表	
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	概要説明および受入先企業等の検討 佐藤 各コース担当教員
2	報告会(出席)	職場体験実習Ⅲ(2年)報告会の出席 各コース担当教員
3	インターンシップ実施	受入先企業等での業務に従事(実習) 各コース担当教員
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	報告会(発表)準備	提出する報告書、報告会で使用するスライド(パワーポイント)作成 各コース担当教員
15	報告会(発表)実施	プレゼンテーション形式による発表 各コース担当教員

注意事項	受入先企業等の選定や事前の準備など、所属するコースの教員と十分に相談を行うこと。 「業務従事中は受入先企業等の一員である」意識を持ち、立ち居振る舞い(ビジネスマナー)に注意し、また実習時は不注意による怪我や器物の破損など、事故のないよう十分に留意すること。 マイスター科2年『職場体験実習Ⅲ』の報告会(別日実施)にも必ず出席すること。
学生へのメッセージ	長期間の業務従事は初めてという学生も多いと思います。自分なりのテーマ(主題)を考え、仕事の大きな流れを体感し、今後の学習活動で学ぶべき課題を持ち帰ってきてください。

科 目					担当教員(○主担当)				
商品動向リサーチ I					○井上守☆				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必修	分野	共通
背景と目的	日本で流通する園芸植物は属名ベースで 1500 属以上といわれている。この授業では、鉢物の取引量で全国 1 位を誇る愛知豊明花き卸売市場が 2016 年に取り扱った 1560 品目のうち、秋冬期の取扱金額上位の 196 品目の植物について、学名や原産地や特徴や管理方法について独自のデータベースを作成する。これにより、実際に流通している植物を効率的に学習することができ、現場で即戦力となれる事を目的とする。								
到達目標	・図鑑やインターネットを利用した植物の調べ方を知る。 ・秋冬期、上位 196 品目について、学名や原産地や特徴や管理方法などを知る。 ・植物の写真の撮り方の基礎を知る。								
評価方法	データベースの作成成果、試験								
教科書	『日本花名鑑 4』(アボック社)								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	最初に 196 品目のリストを配布し、近隣のガーデンセンター(日本ライン花木センター)でリストに該当する植物を探し、写真撮影する。撮影した植物は、学校の図書館やインターネットを利用して、手書きの植物のデータベースを完成させる。最後に 196 品目について、写真から植物名を同定する確認試験を行う。	
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方 井上
2	植物の調べ方、撮影方法	図鑑やインターネットを利用した植物の調べ方と撮影の基礎 井上
3	日本ライン花木センターでの調査(10 月)	日本ライン花木センターでの苗物、鉢物、樹木の写真撮影・調査。季節ごとの品目の解説 井上
4		
5	データベース作成、植物調べ	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ 井上
6		
7	日本ライン花木センターでの調査(12 月)	日本ライン花木センターでの苗物、鉢物、樹木の写真撮影・調査。季節ごとの品目の解説 井上
8		
9	データベース作成、植物調べ	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ 井上
10		
11	日本ライン花木センターでの調査(1 月)	日本ライン花木センターでの苗物、鉢物、樹木の写真撮影・調査。季節ごとの品目の解説 井上
12		
13	データベース作成、植物調べ	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ 井上
14		
15	試験	井上

注意事項	デジカメ、USB メモリ等が必要。(使用には学校への届け出が必要)
学生へのメッセージ	データベース作成はボリュームがあり、家庭学習になることもありますが、データベースが完成した時は達成感があり、学生に人気のある授業です。

科 目					担当教員(○主担当)				
伝統園芸実習					○井上守☆・大島綾子☆(非常勤講師)・津坂昇一☆ (非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	共通
背景と目的	いけばなと盆栽は 1000 年以上の歴史を持つ日本の伝統的な園芸文化であり、さらに近年、海外ではいけばなと盆栽の芸術性が評価され愛好者が増え続け、今ではIKEBANA、BONSAIは「Cool Japan」の中心となっている。本講義では伝統的な園芸文化であるいけばなと盆栽の基礎を学び、実際に制作する事によって、いけばな・盆栽の魅力を理解する事を目的とする。								
到達目標	・いけばなの歴史を知る。 ・いけばなの基本的実技を習得する。 ・盆栽の歴史や技術を知る。 ・盆栽の選定、針金掛け、植え替えを経験する。								
評価方法	取組姿勢、制作物								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	池坊 入門								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	いけばなは 8 コマ分を 1 年後期に不定期に実施する。盆栽は 2 月に集中講義を実施する。	
回	項 目	授業内容
1	いけばなの歴史と実技	時代、文化、建築の変化といけばなのかかわり 大島・井上
2	いけばなの基本	花材見つめ方、花と人の心の触れ合いと自然との対話 大島・井上
3	自由花	花材の特性を生かした創作 大島・井上
4	一種生け	池坊生花の一種生けの花型と種類 大島・井上
5	季節のいけばな	行事のいけばな 大島・井上
6	二種生け	池坊生花の二種生けの花型と種類 大島・井上
7	三種生け	池坊生花の三種生けの花型と種類 大島・井上
8	まとめ・試験	花材の特性を生かした創作 大島・井上
9	盆栽概論	盆栽の歴史と現在の盆栽ブーム 津坂・井上
10	盆栽制作①	芽摘み・枝抜き① 津坂・井上
11	盆栽制作②	芽摘み・枝抜き② 津坂・井上
12	盆栽制作③	針金掛け① 津坂・井上
13	盆栽制作④	針金掛け② 津坂・井上
14	盆栽制作⑤	植え替え 津坂・井上
15	評価、講評	学生が製作した作品を観賞および評価 津坂・井上

注意事項	—
学生へのメッセージ	いけばなや盆栽の魅力を日本人よりむしろ外国人の方が評価しているのでは？と感じられるくらい海外では注目が集まっています。日本の誇るべき伝統園芸文化を受け継ぎ、伝承していきましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
園芸福祉論・実習					○相田明・影山むつみ☆(非常勤講師)・石神洋一☆ (非常勤講師)				
授業形態	講義実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	共通
背景と目的	農業や園芸には、環境保全や生活の楽しみ・文化を担うといった側面がある。これらの多面的機能を利用した園芸療法や園芸福祉は、人々に楽しみや癒しを与え、QOL(生活の質)の向上に役立つ。本授業では講義と実習によりこの分野の理解を含め、実際の活動を主体的に展開するための知識と計画立案について学ぶ。								
到達目標	・園芸福祉の全容を理解する。 ・園芸福祉プログラムを立案することができる。 ・初級園芸福祉士の受験資格を得る。								
評価方法	出席率、受講態度、取組姿勢、提出物								
教科書	『園芸福祉入門』(創森社)								
参考書	『バイオセラピー学入門』(講談社)								
関連する資格	初級園芸福祉士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	基本的に2コマ連続で授業を実施し、1コマ目は講義、2コマ目は実習を行う。	
回	項 目	授業内容
1	園芸療法と園芸福祉①	その活動と現代的意義 石神・相田
2	園芸療法と園芸福祉②	心身への効果・医療と福祉・活動事例・活動プログラム 石神・相田
3	園芸療法と園芸福祉活動①	活動プログラム立案 石神・相田
4	園芸療法と園芸福祉活動②	活動プログラム立案 石神・相田
5	園芸療法と園芸福祉での植栽①	植物の種類と育て方 相田
6	園芸療法と園芸福祉での植栽②	オーガニックのレイズドベッド(立ち上げ花壇) 相田
7	園芸福祉活動の普及①	活動の組織と人づくり・オープンガーデン 相田
8	園芸福祉活動の普及②	事業化と運営管理・NPO・市民農園 相田
9	園芸福祉活動の普及③	地域活動としての園芸療法と園芸福祉 相田
10	園芸福祉活動の展開①	ワークショップを導入した園芸福祉活動 相田
11	園芸福祉活動の展開②	ワークショップを導入した園芸福祉活動 相田
12	ハーブの利用方法	ハーブの種類と栽培方法と利用方法 影山・相田
13	ハーブを使った活動プログラム	ドライハーブを利用したセッション 影山・相田
14	アロマセラピー	アロマセラピーの歴史・効能・精油 影山・相田
15	精油を使った活動プログラム	精油を利用したセッション 影山・相田

注意事項	単位取得者は、初級園芸福祉士養成講座認定校修了証が交付され、初級園芸福祉士の受験資格を得ることができる。受講者は受験することを目標とする。試験日は2月中旬の予定である。
学生へのメッセージ	園芸福祉とは農園芸活動を通じた幸福の追求です。まだ、新しい分野ですので、今後の発展が楽しみです。

科 目					担当教員(○主担当)				
基礎会計					○佐藤智茂☆				
授業形態	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	共通
背景と目的	ビジネス社会の“共通言語”とも称される会計(簿記)を学ぶ重要性やその価値は計り知れない。本科目の目的は、全ての働く人にとって大切な『会計(簿記)力』を身に付けることである。								
到達目標	・財務諸表(貸借対照表・損益計算書)の基本を理解する。 ・簿記(財務諸表を作成するための技術とその体系)の基本を理解、基礎的技能を修得する。 ・財務諸表と現実のビジネスとの繋がりを実感できるようになる。								
評価方法	筆記試験、出席率								
教科書	合格テキスト 日商簿記3級(最新版)(TAC 出版)								
参考書	—								
関連する資格	日本商工会議所主催 簿記検定3級又は初級								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
回	項 目	授業内容
1	オリエンテーション	学習内容の説明 佐藤
2	会計基礎①	お金の役割を考える 佐藤
3	会計基礎②	わかりやすいミクロ経済 佐藤
4	会計基礎③	株式会社の仕組み、成り立ち 佐藤
5	会計基礎④	企業活動と財務諸表の関係 佐藤
6	会計基礎⑤	財務諸表の構成要素(簿記の5要素) 佐藤
7	会計基礎⑥	アルバイトと税金、年末調整 佐藤
8	複式簿記①	勘定科目、仕訳、転記、試算表① 佐藤
9	複式簿記②	勘定科目、仕訳、転記、試算表② 佐藤
10	複式簿記③	商品売買取引にかかる仕訳① 佐藤
11	複式簿記④	商品売買取引にかかる仕訳② 佐藤
12	複式簿記⑤	商品売買以外の取引にかかる仕訳① 佐藤
13	複式簿記⑥	商品売買以外の取引にかかる仕訳② 佐藤
14	複式簿記⑦	試算表作成 佐藤
15	期末試験	全学習範囲内から出題 佐藤

注意事項	自主自発的な学習意欲のあることが履修の前提となる。また復習(予習)は必須である。理解度や進捗状況により、授業内容の変更や講義順序の入れ替えを行うことがある。 検定試験(日商簿記3級、初級)受験を前提とした科目ではない。但し、受験希望者への指導は相談に応じる。 2年前期『起業・経営シミュレーション』の履修希望者は、当科目の履修を要する。 筆記試験は、期末試験の他、授業ごと的小テストも行う。
学生へのメッセージ	ゲーテは著作の中で複式簿記のことを、「人間の精神が産んだ最高の発明の一つ」と記し、稲盛和夫は「会計がわからんで経営ができるか」と語ったそうです。自らの視野を広げるための絶好の学習内容・機会です。数字や計算に苦手意識のある人も、未知の世界への扉をノックしてみましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
園芸色彩学					○井上守☆・荏原温子☆(非常勤講師)・上田善弘 (客員教授)・吉田久美子☆・相田 明・林誠☆				
授業 形態	講義	開講 時期	1 年 後期	時間数	30	区分	選択	分野	共通
背景 と 目的	成熟社会を向かえ、企業は商品の品質や性能を高めるだけでなく、商品のデザイン性を高める事が販売につながる事に気付き始めている。今後経営に求められるものが、理論、効率に代表されるサイエンスから、感性や美意識によるアートになることが予想される。そこで、本講義では商品デザイン力を高めるために、デザインの基礎である色彩について、商品デザインと造園空間に特化した色彩について学習する。								
到達 目標	・色相環とトーンなど基本的知識を理解する。 ・色相理論に基づいた園芸分野における商品事例を知る。 ・園芸文化と色彩の関連について知る。								
評価方法	出席率、受講態度、筆記試験								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画			
回	項 目	授業内容	
1	園芸における色彩とは	色彩とは？ 今後の園芸における色彩の重要性について	荏原・井上
2	効果的な配色テクニック	花飾りにおけるカラーコーディネート	荏原・井上
3	カラーマーケティング・流行色	人の嗜好(ライフスタイル)と売れる色彩との関係を学ぶ	荏原・井上
4	植物のイメージ・花色心理	植物の色が及ぼす生理的・心理的影響	荏原・井上
5	パーソナルカラー	人に似合う色を知る、ブライダルフラワーカラー	荏原・井上
6	フラワーカラーセラピー	フラワーカラーセラピーによる深層心理	荏原・井上
7	植物の色を探る	カラーチャートによる植物の色の『虫の目』観察	荏原・井上
8	植物カラーコーディネート実習	鉢色の違いによる商品性実習(24色ポリポット、花苗使用)	荏原・井上
9	切り花の組み合わせ	イエローアンダートーンとブルーアンダートーン	吉田・林
10	花色とラッピング	イメージワードから受ける色による花束&ラッピング	吉田・林
11	植物の色はどのように発色しているのか	植物の発色機構、花の色素、葉の色素他	上田・井上
12	色と文化	日本人と色、国民性と色	上田・井上
13	造園空間における色彩	庭園、公園、景観における色彩の考え方	相田
14	景観と色彩	景観法と景観色彩ガイドライン、色彩計画	相田
15	試験		荏原・井上

注意事項	—
学生への メッセージ	園芸分野に特化した色彩学は全国でも珍しい授業です。園芸専門のカラーコーディネーター荏原先生は、花き生産者や花き関連企業のデザインアドバイザーとしての実績が多数あり、業界関係者(プロ)が学ぶ先生です。